府立枚方高等学校

校 長 小嶋　信男

平成 31 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

　教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

１．学習指導・進路保障体制の一層の充実により、**「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」**をめざす

２．主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、**「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」**をめざす

３．自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、**「グローバルに考え、行動する学校」**をめざす

２　中期的目標

【次なる 50 年に向かって颯爽と】

→　平成 24 年に 50 周年を迎えたことを踏まえ、これまでの伝統の継承・さらなる発展と、より多くの「颯爽」たる若者（枚方高校校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）を育てていくことへの決意を込めて、これを合言葉としたい。

１　「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて

(1) 生徒一人ひとりが、自己実現を果たしていくために必要な「確かな学力」を身に付けることができるよう、全教員の「授業改善」に取り組む。

・各教科において**一層明確な「学習到達目標」を設定**し、「枚高マップ」をもとにした「教科スタンダード」を作成してきた。今後、新たに作成した指導と評価の年間計画（シラバス）の中で、評価の観点の趣旨と評価方法設定を進め、観点別評価に対応できるよう努めていく。また、次期学習指導要領の改訂に向け、本校生徒に応じた新しい教育課程の検討を始める。また、平成 29 年度入学生から再構築した「総合的な学習の時間」を**「総合的な探究の時間」**に移行するにあたり、課題の発見と解決していく資質・能力をより育成できるような学びを構築していく。

・ＩＣＴの積極的活用の推進等を含めた**「今後における新しい授業のあり方」についての校内研修をさらに充実させ、**学校全体の取組みに発展させる。この取組み等により、**2021 年度までに、**学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における**「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率を 75%以上に**（H30 年度 75.0%）するとともに、授業アンケートにおける**満足度を 3.10 以上に**。（※ 「満足度」とは、授業アンケート「問８ 授業内容に興味・関心を持つことができた」及び「問９ 知識・技能が身に付いた」についての全教員の評価平均（４点満点）、H30 年度７月調査 3.11　12 月調査 3.12）

(2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。

・最後まであきらめずにチャレンジする生徒を育てることにより、**2021 年度には現役生の国公立大学合格者を 10 人以上に**（H30 年度４人）。

・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における**「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を 2021 年度には 75%以上に**（H30 年度 74.7%）。

・**「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」でキャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施するとともに、**課題解決できる力を育成する。

・生徒の表現力を高め、創造力をより豊かなものにしていくため、読書指導や文章を書く力を育成する。

２　「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

(1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。

・学校行事については、生徒の主体的な取組みを一層支援し、自己診断における**「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 90%以上を達成し、維持していく**（H30 年度は 84.5%）。

・**部活動加入率について、2021 年度には 80%以上を達成するとともに、一層の増加をめざす**（H30 年度５月調査 74.5%）

(2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。

・**遅刻者数について、年間 1,000 未満を維持するとともに、一層の減少に向けて、指導を継続**していく。（H30 年度 638）

・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導の充実、携帯電話使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

３　「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

(1) グローバルな人材を育成するため、英語の４技能を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。

・大学等の協力を得て、**英語暗誦弁論大会を充実させ、「イングリッシュキャンプ」等の取組みを継続的に実施できる環境を整備**する。

・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、それに向けた準備講習等を計画的に実施するなどして、**本校在学中に英検２級レベルに合格する生徒の数を 2021 年度には 40 人以上に**（平成 30 年度卒業生 27 人）。国際教養科の改編を見据えて、教育内容の検証と、新たな取組みの検討を行う。

(2) ユネスコ・スクールとしての取組みを更に充実させるとともに、国際交流・異文化理解教育の活性化を図り、世界規模で考え、行動できる人材を育成する。

・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、テーマに応じて生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう、推進していく。

４　教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

(1) 学校トータルとしての広報活動を立案・実施する機能の強化。

・**渉外・広報に関する校内組織を一層強化**。本校の魅力や入学者選抜におけるアドミッションポリシー等、必要な情報を積極的に発信していくため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や学校ＨＰの計画的な更新等を進めていく。

(2) 教育環境の整備とエコ対策の強化を図る。

・**学校として短焦点プロジェクターやタブレットＰＣの活用を推進する**とともに、次世代のスタンダードとなる教育施設・設備を導入できるよう つとめる。

・**ペーパーレス環境の一層の推進**に向けて、校内における連絡体制や各会議のあり方等を見直していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［R1 年 12 月実施分］

生徒アンケートは 36 項目中 33 項目で肯定率が上昇。保護者アンケートの肯定率の平均は昨年度より 04%上昇。概ね生徒保護者の理解を得ており、下降した項目の分析・検討・対応策を講じつつ、引続き生徒を伸ばす取組みと充実した教育活動ができるよう取組んでいきたい。

【生徒アンケート】（回答率　100%（+0.01））

肯定率が昨年度に比べて大きく上昇(5%以上)した項目　　７項目（◎）

36 総合的な学習の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている。　・・・73.5%(12/5%増)
31 視聴覚教材やコンピューターを使用する機会がよくある。　・・・75.8%(8.4%増)
29 学校の生活指導は納得できる。　・・・74.5%(8%増)
16 枚方高校はわかりやすい授業が多い。　・・・71.8%(7.7%増)
17 枚方高校には興味深く楽しい授業が多い。　・・・65.9%(6.6%増)
22 授業でわからないことについて先生に質問しやすい　・・・78.7%(5.9%増)
8 ホームルーム活動は活発である。　・・・79.8%(5%増)

肯定率が昨年度に比べて大きく下降（5%以上）した項目　　０項目（△）

【保護者アンケート】（回答率　72.0%（+20.0））

肯定率が昨年度に比べて大きく上昇(5%以上)した項目　　２項目（◎）

4　子どもは授業が興味深くわかりやすいと言っている。　・・・70.2%(5.4%増)
30 保護者や地域の人々に対して授業参観の機会を設けている。　・・・88.6%(5.2%増)

肯定率が昨年度に比べて大きく下降（5%以上）した項目　　２項目（△）

25 枚方高校のホームページはよく役立っている。　・・・64.8%(6.0%減)
28 枚方高校の学習環境においての施設・設備は満足できる。　・・・61.6%(5.4%減)

【教員アンケート】（回答率　70%（+7.0%））

肯定率が昨年度に比べて大きく上昇(10%以上)した項目　　７項目（◎）

32 学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。　・・・92.7%(47.9%増)
46 他の教職員の授業を見学する機会がある。　・・・100%(19.4%増)
33 学校運営に教職員の意見が反映されている。　・・・72.5%(17.2%増)
34 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。　・・・84.2%(15.8%増)
37 教職員が様々な課題や悩みについて気軽に話し合えるような職場の人間関係ができている。　・・・81.0%(12.5%増)
21 学校行事が生徒にとって魅力あるものになるように工夫・改善を行っている。　・・・85.7%(12.0%増)
30 環境・国際理解・福祉ボランティアなど現代社会の教育課題を取り入れている。　・・・77.5%(10.8%増)

肯定率が昨年度に比べて大きく下降（10%以上）した項目　　７項目（△）

42 清掃が行き届いている。　・・・50.0%(22.2%減)
49 個人情報保護の観点から生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。　・・・82.5%(14.5%減)
14 問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。　・・・67.4%(14.1%減)
9 創意工夫を生かした「総合的な学習の時間」を実施している。　・・・69.8%(11.3%減)
45 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。・・・55.8%(10.9%減)
40 事故・事件・災害等に迅速・適正に対処できるよう、役割分担が明確化されている。　・・・72.1%(10.3%減)
4 教育活動全般について生徒や保護者の願いに応えている。　・・・76.7%(10.1%減)

※　学校教育自己診断の詳細については、別途学校 Web ページに掲載。

学校運営協議会からの意見

委員構成６名（大学准教授、会社役員、中学校長、小学校長、保育所長、ＰＴＡ会長）

○第１回（6/24）「H30 学校評価、H31 年度学校経営計画」「授業アンケート」「教科書選定」

・H30 学校評価：学力生活実態調査、受験実績、部活動、遅刻指導等報告

・H31 学校経営計画：授業力の向上、生活指導、国際交流、広報等説明

Q　教員の指導法の伸びの原因は？

A　ICT 機器活用、ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞなどの授業の取組みが若手中心に広がっている。

Q　読書指導の肯定率の低下は？

A　図書館の利用率が減少。魅力的な本の購入、POP 制作、授業との連携で改善を図る。

Q　学校教育自己診断で「楽しい」という言葉があるが、「厳しい」こともあるのでは。

A　楽しいは“楽（らく）”ではなく、厳しい先にある達成感も表している。

○第２回（11/18）【授業参観】「国際文化科への改編」「授業アンケートについて」

・国際文化科への改編が発表された。今後、国際教養科の取り組みを更に発展させていく。

・授業ｱﾝｹｰﾄ結果について・・・非常に良好、教員の授業相互見学等の成果

・英語民間試験の取り扱い・・・GTEC を導入したが、民間試験活用見送り。次年度再検討

・各分掌より、現状報告（カリキュラム作成、進路希望、学校行事、海外研修報告他）

Q　国際文化科への改編で、SDG s に取り組むとあるが、担当教科は。

A　「総合的な探究の時間」で実施しながら、関係教科と連携することとなる。

Q　枚高マップと授業計画との関連は。

A　枚高マップは授業・行事と学習・進路指導等を有機的に示した図。枚高らしさもだしながら、各教科の教科スタンダードに沿って進めていくこととなる。

○第３回（1/27）「１年間の総括」

・令和元年度学校評価、授業ｱﾝｹｰﾄ説明、学校教育自己診断ｱﾝｹｰﾄ結果説明

・進路状況について

・令和二年度学校経営計画について、説明、質疑応答、承認

Q 保護者向けﾒｰﾙﾏｶﾞｼﾞﾝの登録者数は？登録していない方は「メルマガが役に立っている」とは思はない。ＨＰで案内するなどを検討されたい。

A 登録されている保護者は６割ほど。入学式で案内しているのみ。今後検討する。

Q「校則についての教員間の話し合い」の数値が低いのはなぜか？

A 色々なことについて十分話し合う時間が取りにくいことはある。検討したい。

Q「総合的な学習の時間」について、生徒は評価が上がっているが、教員は下がっている。

A 生徒が学ぶ内容は年々よくなっているが、教員の負担も増えていることが原因では。

◆子どもの主体性は大切。生徒が主体的に動けるように教員が意識することも大切。

◆新学習指導要領となり、授業も「教える」から「考えさせる」となる。自主性・主体性を育て、子どもの意見を引き出すことがﾎﾟｲﾝﾄとなる。

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価（目標上回る◎、達成○、未達成△）（昨年度と比較し、5ﾎﾟｲﾝﾄ以上向上を◎、5ﾎﾟｲﾝﾄ以内の向上・3ﾎﾟｲﾝﾄ以内の低下○）
1「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1)全教員の授業力向上	ア　観点別評価の導入を進め、指導と評価の一体化をめざす。新学習指導要領の一部先行実施及び新しい教育課程の策定の検討を始める。 イ　授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組む。 ウ　教員相互の授業見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を増やす。ICT 機器の活用やグループ学習など工夫し、主体的・対話的で深い学びを推進し、魅力的でわかる授業をめざす。	ア　新学習指導要領の改訂に基く新カリキュラムの検討を開始。 イ　授業アンケートにおける「満足度」の向上(H30 年 12 月実績 3.12) ウ　自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を 77%以上に（H30 年 75.0%）	ア　新学習指導要領の改訂に基く新カリキュラム（令和４年度）を、国際文化科のカリキュラム（令和３年度）とも合わせ、毎年度の変更が生徒の負担や不都合にならないように、枠組みを作成した。 イ　授業アンケートにおける「満足度」の向上（R1 年７月実績 3.18、12 月実績 3.24）◎ ウ　自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を 79.3%（+4.3：昨年度差・以下同じ）○
	(2)夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア　家庭学習を含め、今後における学習指導のあり方について、授業力向上ＰＴを中心として検討・実践を進めていく。 イ　学習指導、進路指導の充実･改善に外部模試等を積極的に活用する。特に節目となる時期の模試については、校内で全員を対象として実施する。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。 学習到達目標に合わせた学習指導と進路指導を共有化する。(教科スタンダードの活用) ウ　生徒の日々の学習や活動の記録を蓄積し、教育効果の検証や新たな調査書に対応できるよう準備する。 エ　「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒の支援体制を充実。ＳＣ、関係外部機関との連携、いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談の充実を行う。 オ　キャリア教育･人権教育･国際理解教育の一層の充実に向けて、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承･発展させるとともに､「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」として再構築し、課題を見つけ探究し、解決する能力を育成する。	アイ　「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間を平日、休日とも平均 50 分以上に(H30 年１・２年平均平日 42 分、休日 64 分) また、同調査における「Ｂ２ゾーン」以上の生徒割合を２年生（２回目）で 43%以上に (H30 年 39.7%) 以上の成果として進学実績を向上させ、現役生国公立大７人以上かつ関関同立80人以上の合格をめざす（H30 年度４人、51 人） エ　自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を 77%以上に（H30 年 74.7%） 「いじめについて真剣に対応」の肯定率を 82%以上(H30 年 82.0%) 自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率を 90%以上に(H30 年 88.0%) オ自己診断「将来の進路や生き方、人権について学ぶ機会がある」の肯定率の向上（H30 年 90%、93%）	アイ ･学力生活実態調査｣における生徒の家庭学習時間平均 55.3 分(平日 44.5 分、休日 70.5）◎ ･「Ｂ２ゾーン」以上の生徒割合を２年生（２回目）41.2%（H30 年 39.7%）○ ・現役生国公立大４人関関同立 40 人合格（H30 年度４人、41 人）△ エ ・自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率 78.7%（+4.0）○ ･「いじめについて真剣に対応」の肯定率 86%(H30 年 82.0%)○ ・自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率を 89.3%(+0.8)○ オ ・自己診断「将来の進路や生き方、人権について学ぶ機会がある」の肯定率 93.2%、94.0%（+2.8、+0.9）○
2「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1)学校行事の充実、部活動の活性化	ア　学校行事及びクラブ活動・生徒会活動の活性化を推進し、生徒の自尊感情の高揚を図る。 ・「ノークラブデー」や新たな部活動の指針を策定し、クラブの活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・文化祭･体育祭を、企画から運営まで、可能な限り部活動生徒等に担当させる。 ・あいさつ運動、ボランティア活動、ユネスコ･スクールとしての取組み等について、生徒会と関係クラブ等が連携できる体制を構築。	ア　部活動加入率を３ポイント以上増（H30 年 74.5%） 自己診断「学校に行くのが楽しい」肯定率 85%以上（H30・81%） 自己診断「文化祭･体育祭･修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率を 90%以上に（H30 年 84.5%）	ア ・部活動加入率 74.7%（+0.2）○ ・自己診断「学校に行くのが楽しい」肯定率 85.2%（+4.0）○ ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 88.5%（+3.9）○
	(2)生活規律を確立させる取組み	ア　生活規律を重視する指導を明確化し、生徒･保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実。規則の再確認。 ・遅刻指導、服装指導、頭髪指導の継続 ・交通安全指導、薬物乱用防止教育の充実 ・ＳＮＳの正しい理解、携帯電話の使い方指導	ア　年間総遅刻者数1,000人未満維持（H30年度638人） 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率向上(H30年生徒67%､保護者82.4%)	ア ・年間総遅刻者数1,000人未満維持（H30年度638人） ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率生徒74.5%保護者86.6%（+8.0、+4.0）◎、○
3「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1)英語４技能の育成と「使える英語力」の伸長	ア　英語力４技能の育成を進めるため、指導法の工夫を行うとともに、英検や英語学力調査等、外部検定の積極的な受験を行う。 イ国際教養科の改編が予定されており、今後のあり方や教育課程、取組みを再検証し、改善の準備を進める。	ア･イ　英検等、外部検定の合格者数の増加(H30 年度卒業生の在籍期間における２級合格 27 人、準２級合格 49 人) イ国際教養科の教育内容や取組みの再構築を検討。	ア･イ ・英検等、外部検定の合格者数の増加（R1 年度卒業生の在籍期間における２級合格 35 人○、準２級合格 34 人△） イ国際教養科の教育内容や取組みを検討し、国際文化科への改編準備を行った。○
	(2)ユネスコ･スクールとしての取組みの充実・国際交流活動の活性化	ア　海外修学旅行及び海外語学研修のさらなる充実、学校交流の推進。旅費の効率的な執行。 イ　ユネスコ・スクールとしての活動を一層充実させるとともに、適切に情報発信。 ウ　異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。	ア　事後のアンケート結果等を分析し、肯定率 95%以上を維持する。（修学旅行アンケート：全体評価 H30 年・97%） イ・ウ　大学・地域等と連携した取組みの継続、充実。 自己診断｢国際交流活動が活発｣の肯定率 90%を維持(H30 年 94%)	ア ・修学旅行アンケート：全体評価　96.4%　○ イ・ウ ・大学・地域等と連携した取組みの継続、充実。 ・自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率 92.4%○
4 教員組織体制強化と環境整備	(1)広報活動の一層の充実	ア　広報に関する業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校トータルとしての広報機能を充実。Web ページの充実を行う。 イ　学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会への積極的参加を推進。 ウ　「枚高メルマガ」「ブログ」等の活用により、保護者への情報発信を一層充実させる。	ア･イ　志願者の確保（H31 年度選抜の志願倍率 1.21 倍） 学校説明会の参加者数 1,200 人以上を維持（H30 年は約 1,450 人） ウ　自己診断「枚高メルマガは役立っている」の肯定率向上（H30 年 66%）	ア･イ ・志願者の確保（H31 年度選抜の志願倍率 1.21 倍） ・学校説明会の参加者数 1,219 人　○ ウ ・自己診断「枚高メルマガは役立っている」の肯定率向上 64.6%△
	(2)教育環境のさらなる改善・充実	ア　ＩＣＴ機器の充実、授業での活用の工夫。 イ　会議室でのプロジェクター活用、校内イントラネットの活用促進などで、ペーパーレス環境を一層推進。	ア　ＩＣＴ機器の活用による授業改善を行う。教員の活用率の向上(教員の ICT 活用：88.1%) イ　職員会議のペーパーレス化や効率化を進め、時間短縮を図る。	ア ・ＩＣＴ機器の活用による授業改善を行う。教員の活用率の向上（自己診断「教員の ICT 活用」90.2%）○ イ ・　職員会議のペーパーレス化や効率化を進め、時間短縮を行った。(おおむね１時間以内で実施)